

中丸地区 村政懇談会

日 時：平成 28 年 7 月 4 日（月） 午後 7 時から午後 8 時 50 分まで

場 所：中丸コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計 10 名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員 3 名） 計 6 名

自治会長（押延区，須和間区，舟石川中丸区，原子力機構長堀区，緑ヶ丘区，南台区，フローレスタ須和間区） 計 7 名

自治会連合会（事務員 1 名） 計 1 名

参加者：押延区 4 名，須和間区 6 名，舟石川中丸区 8 名，原子力機構長堀区 2 名，緑ヶ丘区 9 名，南台区 6 名，フローレスタ須和間区 3 名，その他 4 9 名，未記入 1 名

計 8 8 名

総計 1 1 2 名

《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介（自治会長並びに村執行部）
2. 中丸地区自治会長あいさつ
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 平成 27 年度要望に関する進捗状況に関する説明
6. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
7. 質疑応答
8. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会のことば

《記録》

【4. 質疑応答（村長挨拶並びに村政の説明）】

なし

【7. 質疑応答（地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

原子力機構長堀区住民：「村道・勝木田下の内線の建設に伴う交通事故増加の懸念について」の事前質問回答文を読んでびっくりした。色々な関係機関と調整したのかと思うが、道路を作った後で信号機を設置するのは非常にミスマッチである。安全対策がまったくとれないままで、今年度無理やり駅東大通りから駆上り動燃線までの区間の供用開始をする必要があるのか。素朴な疑問である。信号機の設置ができないのな

中丸地区 村政懇談会

らば、それまで供用開始を遅らせても良いのではないか。怪我人が出てからでは遅い。何故計画を強行するのか、申し訳ないが理解できない。信号機がなく、供用されるのであれば代替案を考えないといけないと思う。信号機が設置できないのならば、まず二車線のところは、今のままだと大変危険であるため、駅東大通りと村道とを一車線に規制をかけないといけない。また、私なりの代替案を考えると、今国土交通省から注目されているランドアバウトしか考えつかないが、多分これは現実的には無理だと思う。現実的な事を考えると、信号機が付くまで供用を遅らせるのはどうか。

建設農政部長：心配はよく分かる。工事が終わってから信号機を要望した訳ではなく、数年前からこのような計画があると信号機を要望していたが、なかなか通じない。ただ、来年の3月には供用開始したいと警察と協議しており、望みは持てる場所である。そこまでして供用開始をするのかとの事だが、交差点の形状に関しても当然警察と協議しており、安全を確保するような形で交差点改良をしていく。また、駅の方から車が多くなる事を心配されているのかと思う。今は梅津鉄工所の方から来る子ども達が交差点を渡るのが危険な状態かと思うが、今年度の交差点改良で拡幅する計画であり、今よりも安全な形で小学校に行けるようにと考えている。勝木田下の内線はどれくらいの交通量になるかだが、五反田線までしか今回供用開始はしない。五反田線から原研通りまでは、まだ供用開始はしないので、状況を見てからということになるかと思う。私達としては子ども達の安全が第一ということには十分承知している。それを含めて警察と交差点の形について、もっと安全になるように計画していくので理解してもらいたい。

村長：今建設農政部長が言ったことについて。私からも警察に信号機を付けるように言っているし、今度県警本部でも言う。ただ信号機を2つ付けられるかは分からないので、少なくとも駆け上がり線には付けるように言う。部長の立場ではなかなか強く言えないが、私はやると言わせる。あれだけ出来ていて使えないのは、信号機の設置が進まなかったため、あえて行わなかった。あのままにしているは何の意味もない。私が言っても付かなかったら面目丸潰れになる。ただ五反田線には中央分離帯があり、信号機を設置できるかは分からない。予算の関係上二つは難しい。少なくとも危険が高いほうは最優先で行う。今の段階で全て要望どおりにできるとは言えないが、駆け上がり線だけはなんとかする。

原子力機構長堀区住民：先ほどの質問とほぼ同内容。動燃線と今作っている道路のぶつかるところがどうなるのか、供用開始前に明らかにして示してもらいたい。どちらの交差点も小中学生の往来が多く、東海病院に繋がる道のため高齢者も多い。交差点の安全対策は重々行って貰わないと住民として安心できない。

建設農政部長：詳しい図面等を後日示して説明する。

中丸地区 村政懇談会

須和間区住民：先ほど回答のあった村道0202号線だが、側溝が途中から壊れている。そのため水が下に流れない。側溝を直す予定はあるのか。

建設農政部長：先程少し説明したが、壊れている側溝は確認しているので、なるべく早く直すようにする。陥没している側溝が何箇所かあるので、全部を一度には直せないが、支障があるところはなるべく早く対応する。

須和間区住民：それと村道3184号線について。途中まで側溝ができていますが、途中から山際の方で土をもって流しているような状態である。そこにも側溝を入れてもらいたいが、どうか。

建設農政部長：この場所は、行わないというのではなく、どのような手法でできるのか一緒に協議していけたらと思う。

須和間区住民：二つの側溝はどうしても土が詰まってしまう。雨が降ると土が詰まったところの上に流れてしまい、道路に氾濫する。何かこの氾濫を防ぐ道路の計画や予定はあるのか。

建設農政部長：地元の方から報告があった際はパトロールもしているが、酷い時は随時行わなくてはならないと思っている。村道0202号線のだいぶ上の方は木が生えていて落ち葉が多いので樹木の剪定を行いたい。また、側溝については蓋があつたりなかったりするところもある。また途中種類の違う側溝もあるので、布設し直したところもある。その辺りを勘案して対処していきたい。

【8. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

舟石川中丸区住民：私の隣の家について。村に空き家条例はないのか。隣の家の住人が引っ越してから10年くらいになるが、その方の庭でブタクサが2mくらい広がり、そこからねずみや蛇やハクビシンが私の家の境界を行ったり来たりしている。隣人は年に1回くらいしか庭の整備に来ない。しかも夜中の12時や1時頃に来る。私が心配しているのはその家の前が小学校の通学路になっている事である。二階に高さ10mくらいのアンテナがあるが、この前の地震で瓦が落ちて、アンテナが抜けそうである。そのアンテナが抜け、通学中の子どもに当たったら大変な事故になる。これは3年前くらいに役場の担当に言ったが、その後何の回答もない。本人のところに手紙を出したとは聞いたがそれ以降返事もない。早く手を打たないと大事故になる。役場に強制的に行ってもらいたい。高齢化が進み、色々な場所で同様のことが起こっているかと思う。よろしくお願ひしたい。

建設農政部長：国で法律ができており、平成27年2月に空家等対策の推進に関する特別措置法が施行され、5月26日から関連の規定が施行された。それを受けて大きく変わった事は、市町村に法的根拠を与えたという事であり、強制執行が可能になった。その法律が制定されたことによって、村としても空き家等対策を行うために計画を立てなくてはならなくなった。弁護士や土地家屋調査士等を招いて協議会を作り、

中丸地区 村政懇談会

その方達を中心に空き家等対策計画を今年度策定し、空き家等の対策を行っていかうと考えている。また、空き家についてだが、特定空き家といって朽ち果てた空き家になるとどうしようもないので、特定空き家になる前に、相続等もあり難しいところもあるが、地主等に連絡して、なんとか特定空き家にならないような方策を講じ、仕組み作りができればと考えている。ちなみに東海村では今ざっと調べたところ250戸程の空き家等がある事が確認されている。今後その空き家等がどのような状態なのか整理をして、どのような対策をするのか考えていきたいので、もう少し時間をもらいたい。よろしくお願ひしたい。

村長：方針はわかるが個別の対応はどうするのか。

村民生活部長：抜けそうなアンテナがあり、空き家の庭の草が繁茂していると、環境政策課へ苦情を入れたのかと思う。村としても空き家は個人の財産なので、手紙等で持ち主にお願いはしているが、その先について強制はできないため、なかなか対応できていない状況である。村が何もしなかった訳ではなく、持ち主へ手紙は出している。強制はできないため、何回か環境政策課に言ってもらい、持ち主に何度か手紙を出すしかないかと思う。我々としても、今の発言のアンテナが落ちそうで子どもたちが危ないという言葉も添えて、手紙で催促するしかないと思う。環境政策課長も中丸地区村政懇談会に来ているので帰りに確認させてもらおう。

舟石川中丸区住民：空き家の持ち主は笠松運動公園の近くにいる。

村民生活部長：村政懇談会が終わった後で話を聞かせてもらいたいと思う。

押延区住民：近くに老人ホームがあるが、その老人ホームの前に埋め立てた土地が確か10年くらい前からある。その状況を聞きたい。

村民生活部長：東海園の道路を挟んだ反対側のフェンスがかかっている場所かと思う。あの場所については業者が最終的に埋め立てをして、検査を行い、問題がなければ地権者に返すことになっていたが、それを行わず、埋めたままで業者がいなくなった。我々としても担当する業者がいなくなったため、どうすれば良いのか県とやり取りをし、県で埋め立てが終わった事を認定したら地権者に返すことができるという話になっていた。その条件として、水質検査を2年間行って問題なければ地権者に返すことができる。やっと平成27年度から水質検査を始めたため、後2年は様子を見て、29年に何らかの動きがあるかと思う。

押延区住民：素鷲神社から村松地区に抜ける坂道が散歩コースなので、村道と農道があるところに砂利を敷いて欲しいと村に要望した。

建設農政部長：川崎産業の横の道については、何とかならないかと要望を受けた。草刈を行ったときに道路は見えるようにし、通れるようになっている。ただ、砂利を敷くというのは防犯等の問題もあるため、本当にあの道を通しても良いものかどうか地

中丸地区 村政懇談会

元の人とも協議をしていく。

押延区住民：今の関連の質問。先程の質問に出た道路を数ヶ月前に歩いた。なぜ行ったのかというと遺跡みたいなものがあるからである。あの道は元々村松虚空蔵堂へ行く道である。一つ目の質問だが、あの道路はもう復旧しないのか。村の方針が聞きたい。今は田んぼの脇にあった道路がほとんど使えない。もう一つは、素鷲神社から村松の虚空蔵堂の方向へ300mくらい向かっていく途中、左側に遺跡がある。これは村の発掘調査で出たのかと思う。後は太陽光発電がある場所の一番高いところに、祠というか、2mから4mくらいのお墓みたいなものがある。そこには天保10年とあり、今から200年くらい前のものである。先程歴史館の話がでたが、そのようなものをどう保護していくのか。もともとあの道は虚空蔵堂へ通う道である。その辺の村の考え方を聞きたい。それから生涯学習につながると思うが、そのようなものを村できちんと把握して、次世代の子どもたちに歴史を伝えていくのが大切かと思う。

建設農政部長：遺跡の把握はしていない。生涯学習課とも情報を共有し、どのようなものがあるのかを確認して、どのようにしていくのかを庁内で調整していきたい。

教育次長：教育委員会から遺跡と、歴史と未来の交流館の活用の仕方について答える。先程話があった素鷲神社から東に行ったところは、恐らく真崎城跡だろうと言われているところであり、天神山古墳や様々なものがある。遺跡については、現状で保存しているので特に掘り返したりはしない。ただし、昔の伝承を保存したいということもあるので、地元の人達と話しながらどのように保存していくのかという事を考えていきたい。

それから歴史と未来の交流館について。東海村は住みやすいと言われている。去年だったかと思うが、県内の高校生にアンケート調査をしたところ、東海村の高校生は地元に着や誇りを持っているという回答が8割を超えた。その一方で地元の歴史に詳しくはなく、お祭りなどのイベントにも参加していない。地元の歴史を次の世代に伝えていくことは非常に大事なことである。歴史館については、歴史館とは言っているものの私達は総合博物館と考えており、古いもの以外にも地形や植物や動物などを学ぶ生涯学習の場所だと考えている。建物ばかりではなく、とうかい丸ごと博物館という事で、地域にある宝を活用しながら生涯学習活動として、青少年の活動だけではなく、青少年を応援する人たちも村全体がますます豊かになるようにしていきたい。

緑ヶ丘区住民：広報とうかいの4月号に、村のお金がどんなことに使われるのかという記事があった。そこに新しい内容のものが色々あるが、その中で2点質問したい。東海村のほしいものブランドの確立を目指すとあるが、今から25年程前に江戸崎のかぼちゃがブランド化された際に色々話を聞いたことがある。江戸崎のかぼちゃは農協が中心になって、大変な努力をしてブランド化した。東海村でほしいものブランド

中丸地区 村政懇談会

化をしなくてはならないと、私は15年前に提案したが、東海村の人は独立独歩の精神が強い。悪く言うと協調性がない。本当に東海村のほしいものをブランド化できるのか。サクセスストーリーができあがっているのか聞きたい。

建設農政部長：ほしいものは、ひたちなか市と那珂市と東海村でほしいも協議会を作っており、ブランド化に向けて協議をしているところである。今年度ほしいも産地強化基礎調査事業という新しい事業をたちあげた。ほしいもの生産加工の共通のマニュアル作りを行い、ブランド化を図っていこうという事である。効果として、今までは勘でほしいもの生産をしていたところもあるかと思うが、生産過程をマニュアル化することで安定した生産と品質を確保し、ブランド化を図っていこうと考えている。今年度は土壌分析調査等も計上し、農家に協力してもらい、このような事を調査してブランド化を図っていきたいと考えている。

緑ヶ丘区住民：今の回答だけではほしいものブランド化などとてもできない。東海村のさつまいもは戦時中豚に食べさせる芋だった。それが戦後展開されていったのだから、まずは品種を良く調べて、土壌の調査も当然だが、そのほかに色や香り、うまみなどが揃っていないとブランド化されない。かぼちゃの場合は、かぼちゃといえば江戸崎というくらいになっているが、25年程前は江戸崎の農家の人もわがままな人がおり、ルール違反する人が沢山いたため、まとまらなかった。それを江戸崎農協の人がまとめあげた。東海村の農協にそれだけの力があるのか。私は非常に疑問に思っている。私が15年前に提案した時は協調する人がいなかったのに、今は206万円程の予算がついている。こんなことでできるのか。サクセスストーリーがちゃんとできているのかが疑問だった。

もう一つはCO₂の低減に関して、バイオマスの利活用として477万円の予算がついているが、バイオマスの利活用とすると、東海村の場合は生ゴミと下水処理場から出る材料を使う以外にはないかと思う。それ以外に何か安定した燃料源として考えているものはあるのか。教えてもらいたい。

教育次長：3月までほしいもの仕事をしていたので答える。東海村のほしいものをブランド化するというのはなかなか壮大な計画だが、東海村の土壌は周辺の地区と違い、原料芋の中にかなりでんぷんが溜まる特質がある。県内の業者が注目している。ただ経験則的に良い芋が取れるだけではなく、今年はブランド化のために、日本土壌協会に委託をし、村内のいくつかの畑の土壌を分析することになった。それは天日干しあるいは今流行っている機械干しで非常に評価の高いようなところをいくつかピックアップして、どのような土壌で美味しい原料芋ができるのか。それぞれの土壌毎に特色のある芋ができるのであれば、きちんと土壌分析をしたうえで、適した芋を適した方法で行っていかなくてはいけない。そのような訳で今年度は土壌分析からはじめ、どのようなものが甘くて柔らかくて、どのようなものが皆さんに受けるのか、買ってもらえるのかを分析しながら、そのような作り方をしたい。また、第一歩として土地の

中丸地区 村政懇談会

土壌を調べて、それが名人と呼ばれる人の土壌と同じような成分で上手く栽培できるのであれば、東海村にそのような土壌の場所をどんどん作り、東海村の中で質の高い原料芋を作っていく、東海村でしかできないほしいものというものをブランド化していきたい。前からできないと言われていたが、農家とタイアップしながら、農協の力も借りてブランド化を進めていこうと考えている。

村民生活部長：バイオマスだが、村長は常々東海村は環境先進都市を目指すと言っており、様々な環境の取り組みを村として率先して行っていこうと始まった。今教育次長から説明があった、ほしいもの残渣をなんとかできないかというのが取り組みのきっかけである。どのような事業を展開すれば良いのか調査をしているところだが、先程の発言にあったように下水の汚泥や食品廃棄物などが燃料となる。その他にどのようなものが燃料となるのかは今調査している。東海村の中でバイオマスを使って事業ができるのかというのが問題になっており、なんとか民間にも参入してもらい、事業としてできる方法はないかこれから探っていくという状況である。

南台区自治会：せっかく村の幹部が来ているので教えてもらいたい。今自治会に参画していない人が増えている。そのような中で先日、東海村の25%が自治会に参画していないと言っていた。自治会に参画していないとどうしても孤立することがある。それが非常に心配であり、特に高齢化であればなおさら自治会に入らないという方も増えてくる。そのような中で自治会のあり方、将来のあり方について教えてもらいたい。今自治会に参画していない人が参画する方法も教えてもらいたい。

村民生活部長：現在自治会の加入率は52%くらいであり、残りの方は自治会に入っていない。自治会によっては加入率が20%台のところもある。加入率が低いところはアパートや新しい方が多いところである。村長も言っているが村としては、自治会という組織は、先程話にも出たが高齢化が今後進んだり、災害が起きたりした際に非常に重要な組織だと思っている。そのため何とか自治会加入を伸ばしたいと思っているが、なかなか伸びていかないのが現状である。我々も自治会連合会とお互いに協力して自治会加入を促進するような事業を行おうとしているが、昨年度は先程説明したように、村は自治会の負担を減らすという取り組みを行っていたので、今年は自治会加入も含めて行っていきたい。私が考えているのは、中丸地区でお祭りを行うかと思うが、お祭りの際に自治会加入者だけではなく、色々な事業所や団体の人が来てお祭りを実施している。このような機会に自治会加入を促すことはできないか。何故自治会に加入しないのかというと自治会が面倒だからという面もあると思う。なんとか自治会に加入してもらえないか、我々も考え、自治会連合会と協議しながら行っていきたい。そのため、今具体的にこれを行えば良いとは言えない。

原子力機構長堀区住民：夏が近づくと憂鬱になるのが暴走族である。夏だけではない

中丸地区 村政懇談会

が、駅周辺に暴走族だけではなく、青少年も夜中集まってたむろしている姿が見られる。先程村長の話にもあったが、東海駅の西と東の整備を進めていくうえで、できれば駅周辺に交番等を配備してもらいたい。

建設農政部長：今年度交番は駅西に移転する予定である。

村長：交番は県で予算化して進めるとは聞いている。村でどのタイミングで皆さんに広報していくのなかなか難しい。議会では答弁したが、議会でやり取りしたことを皆さんが見るのは議会だより等かと思う。皆さんに伝えたいが、村が整備するのではなく、県が行うので勝手に村が広報するのもどうかと思う。情報提供の仕方を考えたい。また、自治会加入はずっと私も悩んでいる。村が広報誌を全戸配布しているため、自治会に加入するメリットがあまりない。多分他の市町村は自治会の回覧板で広報誌を回しており、自治会に加入していない人は自分で広報誌を市役所や公民館に取りに行くしかない。ただ、自治会加入を促進するために全戸配布をやめるのは、サービスの低下になるためできない。既に充実しているなかで、更に自治会に入るメリット感をどう出すのか。災害時に自主防災組織や近所の助け合いの大切さを感じる。大震災直後は災害対策への関心が高かったが、5年も経つとその意識が薄れている。何か引き込みをして関心と呼ばないと自治会加入は難しい。とりあえず自治会に入ってもらい、その後に理解してもらおうこともあるかと思う。ほしいものについてだが、原料芋はそれなりに品質を揃えられるが、ほしいものは加工品であり、加工段階でそれぞれの農家の味がなかなか統一できない。ただブランド化を目指して統一をしていかないと、今のままでは東海村も埋没しかねない。農家の人にその意識を持ってもらい、農家でまとまらないと大変なことになるという意識も持ってもらいたい。その考え方が次の世代の人たちにも浸透すれば良い。ほしいもの残渣については畑にまくのではなく、燃料の一部として使用したい。ただ圧倒的に量は限られているので、通年を通して安定供給は難しいかと思う。そのような時に色々なものを材料として年間通して供給できるのか考えていきたい。個人的にはさっきのパイプラインの話ではないが、色々なことができると思う。そのような事も含めて将来的に色々なことをやっていきたい。

以上